

信州大学知の森基金を活用したグローバル人材育成のための短期学生海外派遣プログラム
実施状況および成果

プログラム名	MICOLLAC (International Conference on Languages, Literatures, and Cultures)学会発表(参加)および、UPM(Universiti Putra Malaysia)視察により、海外留学への動機付け	
学部・研究科名	人文学部	
実施期間	2016年8月13日～8月22日	
研修先(国・都市・施設名)	マレーシア	
参加学生数：9名		知の森基金からの支援者：5名
プログラム概要	本プログラムは次の2点を行う。 (1) MICOLLAC (International Conference on Language, Literature and Culture)において学会発表あるいは学会参加をし、最新の言語学および英語教育学の研究情勢を知る (2) UPM (Universiti Putra Malaysia)に赴き、短期プログラムの可能性を探ると同時に、まだ海外留学をしたことのない学生に海外留学をするきっかけを作りたい。	

実施状況・成果

学会は、参加者中5名がそれぞれ単独発表を行い、残りの4名も含めて9名が学会に参加した。当日まで発表に向けた指導が続いたが、そのおかげで、聴衆の前で堂々と英語で発表を行うことができた。しっかりと準備し、きちんとした発表ができたことが成功体験になったと言える。実際に、9月に学内で行われた次の発表会に向けて、自信のある顔で準備を進めていたのが見えるし、再度、2017年度にも(2017年10月予定)海外学会発表を行いたいと参加者たち自らが言い出し、現在、その準備に取り掛かっている。

海外留学への動機づけについては、参加者9名中、半年以上の留学を経験した学生が2名しかいなかったもので、7名に海外留学を勧めることが目的であった。そのうち2名は、2017年度に留学することを決め、先日、正式に留学することが決定した。残り5人も、留学を検討したいという意志が強く、留学できるように、準備を進めることになった。9人の中には海外に行くのが初めてという学生も3名いたが、海外に行くことは特別なことではなく、ましてや恐れるべきことでもなく、新しい世界を体験できる、(思っていたよりも)気楽にいくことのできる場所であると認識を変えることにつながったといえよう。

UPMとの話し合いはとても有意義なもので、来年度から、20名程度の語学留学を受け入れてくれる方向で話し合いが進み、全学教育機構でUPMへの短期留学をJASSOに申請し行う予定である。この支援をいただいたことで、腰の重かった学生が海外に行くだけでなく、学会で発表まですることが可能になり、結果として、海外にむけて発信する自信と行動力が身についたことは間違いないと言えるだろう。

学生の声①ー人文科学研究科 学生

私は知の森基金の援助によりマレーシアの言語学会にて研究発表をしてきました。今回の発表は私にとって初めての学会発表でした。補助をいただいた事が私にとって二つの点で大きかったと思います。一つ目は学会に向けての準備の段階でも、本番でもいい加減な気持ちで取り組めないという気持ちをより強くしてくれた事です。二つ目は費用の面で海外の学会という事で参加を迷っていた時に私を後押ししてくれる要因となった事です。

おかげさまで初の学会発表を無事終える事が出来ました。発表前は緊張の連続でしたが、本番では落ち着いて発表出来たと思います。今回の発表を通して得られた自信や見えてきた改善点はこれからの私にとって大きな収穫だと感じます。

このような経験は知の森基金の支援なしではあり得ない事でした。こうした機会を与えてくださった知の森基金には大変感謝しています。

学生の声②ー人文学部 学生

海外渡航について金銭面でも生活面でも不安があった私にとって、今回のマレーシアでの学会発表と、それに伴う知の森基金援助はまさに渡りに船でした。1週間強という短い期間ではありましたが、現地での生活は言語に止まらず気候・人・景観・風習・宗教等々あらゆる面で刺激的であり、別の地域や、より長期の海外留学について考える良い機会となりました。

MICOLLAC学会発表および学会参加



UPMの校舎と寮

